



成長

教会標語

日々新たにされる私たち

(Ⅱコリント5: 17)

編集 < 総務 >
 発行人 西村 敬憲
 発行所 岡山市東区
 西大寺中野 543-2
 日本同盟基督教団
 西大寺キリスト教会
 電話(086) 943 - 7552

「次の目標」



主任牧師 西村 敬憲

夜のスポーツニュースを見ていたら、ポルトガルから帰国したカズこと三浦知良（かずよし）氏が映っていました。ポルトガルの二部リーグ、オリベイレンセで二シーズンを終えて五月二日に羽田空港に着いて取材に答えていたのです。帰国前には、クラブを通して「ゴールも、出場機会もほとんどないまま終わってしまい、悔しさの方が多かった」とコメントをしていた通り、「起きてから寝るまで、サッカーだけを考えると過ごした。その意味では良かったが、プロとしては試合に出て結果が出ない限りは、いい結果とは言えない」と自分に対して厳しい言葉で語っていました。

しかし同時に、朝一〇時から始まる練習では「ミウラ、走れ！ もっと速く走れ！」と若手と同じ過酷な夜のスポーツニュースをトレイニングを続けても、「とにかく必死になって自分の一〇〇%を出して、自信を掴んだり、期待したり、そういう日々が楽しくて、幸せだったなど。」笑顔で振り返っていました。

カズは次のシーズンでプロ四〇年目になります。国内での現役続行を決めているようです。この人の生き方を応援するひとりにトシこと田原俊彦さんがいます。「アイツも分かっているけど、日本のサッカーJ1ではもう、活躍できないわけじゃないですか。僕と同じですよ。ただ、サッカーボールを蹴ることがカズの人生なんです。僕が頑張るってステージ上でマイクを持つのと同じです」。

今年の二月の誕生日にはお互いにラインでこんなやり取り。「ハッピーバースデー、五七歳。まだまだ若いな。オレは六三だつて。腰が痛いはずやん。いい年になることを念じています」と。すると五分後に「ありがとうございます。ここからが勝負ですね。頑張ります」。トシさんは「ここからが勝負」とは、スゴい！

「将来、何になるんだろう、いつまでやるんだろう」と思っています。本当に「謎」とお互いの生き方に通じるものがあるのでしょうか。

イエスの愛を地中海のギリシア世界からヨーロッパまで伝えたパウロは、その三回目の伝道旅行の終わりにエルサレム教会に戻ることを決めましたが、その時にこう語りました。「私はそこに行つてから、ローマも見なければならぬ」と（使徒の働き一九章二一節）。

実はこれまでに数え切れない妨害や迫害にさらされ、投獄やむち打ち、さらに仮死状態になったこともあったのです。もう十分ではないかと思うのですが、彼はさらにローマ帝国の中心、すべての道が向かう帝都ローマでイエスの愛を語ろうとしていたのです。世界を

目指して、まさに「ここからが勝負」という言葉がびつたりです。

強い人だと思いかも知れませんが、自分の弱さに悩んでいたことを告白しています。そして、「私が弱いときにこそ、私は強いからです」とイエスの愛によって力が与えられていることを語っています。その強さというものを言いかえるなら、幸せだということだと思いません。パウロは、やめたければいつでもやめてよかったです。彼の教養があればいくらでも必要とされる場所があつたはずですが、でもどんな苦難があつても挑戦し続けようとしたのは、そこに幸せを見出していたからだと思えます。だから彼の書いた手紙には、「喜び」という言葉が数え切れないほどあるのです。

キング・カズもこれからのことを聞かれてこう言っています。「自分がどこで、どういうプレーをしてサッカーをやりながら幸せを感じるかが大切だ。」こんな幸せを持つことができる人は多くはないかもしれま

※ 次ページへ

洗礼の証し



京深 智也

自分と教会の出会い、サムエル幼稚園に通っていたことから始まります。サムエルでは礼拝の時間に紙芝居や聖書のお話を聞いていました。その頃は、聖書やイエス様についてよく分かりませんでした。けれども幼稚園と小学生科の教会学校で毎週、聖書のお話を聞いたことや聖書劇をしたこと、またボーイスカウト隊の活動で聞いた聖書のお話により、だんだんとイエス様や聖書について分かるようになりました。

もう一つ、自分は元々、西大寺南小学校に所属する児童でしたが、五年生の九月からサムエル国際キリスト教学園に通うようになったことが、イエス様について詳しく知る機会となりました。SICAでも聖書について学び、神様が人間を救うためイエス様を地上に

送ってくださったことについて、より深く理解できるようにになりました。そしてグッバイ小学生で、神様について、人間の創造と罪について、イエス様の十字架と永遠のいのちについて整理しながら学び、神様を信じないままにいる人はゲヘナへ行くこと、イエ

洗礼の証し



大下 恵介

ス様を救い主なる神様として信じる人は、罪赦されて、永遠のいのちをいただきます、パラダイスへの道が開かれていることを知り、イエス様を信じたいと決心しました。自分には、嘘をついたり、約束を破ったり、欲しい物を奪ったり、神様の命令を破ったり、悪いことを見て見ぬふりをしたり、他人を傷つけたりと様々な罪があります。その罪のために、イエス様が自らを犠牲となられたことで、自分の罪を赦して下さったことを知り、

僕はサムエル幼稚園の時から教会に行っています。イエスさまを賛美するのが楽しかったのを覚えていますが、特によく覚えてるのは、園歌の『みんなサムエル』です。

今でも賛美は好きで、楽

器を弾いたりしています。また、教会学校の小学生科で聖書劇をすることも楽しいです。よきサマリア人や十の災い、この間はエフデの劇をしました。聖書を読んで、自分たちでセリフを考えると、当時の人の気

イエス様から愛されていると思えました。

自分の将来の夢は、水道局員になることです。小さい頃は将来のことをよく考えていませんでしたが、小学二年生ぐらいの時に父親を見て、公務員になりたいと思えました。思ってた間もない頃は、勉強などをせずとも試験に合格すれば公務員になれると考えておりましたが、後々社会の厳しさを知りました。厳しく、辛い世の中でもイエス様と一緒に歩きたいです。

持ちを身近に感じることでできます。

僕は不安になる時、イエスさまに「落ち着きますように」とお祈りしています。

お祈りすると、安心して気持ちになります。また小学生になってから、自分にいっぱい罪があることを知りました。例えば、僕には嘘をついたり、暴力や暴言をしたり、約束をやぶったり、人の物が欲しい気持ちになったりします。でも、イエスさまが十字架にかか

※

せん。でもパウロの幸せは、私たちにも招かれていると思います。「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」
(マタイ十一章二八節)。

最後にみことばをお読みします。

「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」

(ヨハネ十一・二五)
(23・12・24受洗 中学生)

※ 次ページへ

僕は将来、サッカー選手になることが夢です。対戦

信仰生活五〇年の証し

横山 留美子

信仰生活五〇年、そして西大寺キリスト教会の皆さんの交わりに入れていただき、二一年になります。これまで、神さまの恵みから感謝します。

る。」

(「コリント一五・一九」)

振り返ってみると、初めて聖書から答えをいただき、感動した日を思い出します。それはイエスさまのよみがえりについて本当か、それとも単なる望みか、という疑問がわいてきた時のことです。牧師先生に聞いてみようと思っていたのですが、間もなくして次のみことばに出会いました。「もし私たちが、この世の生活でキリストにあつて単なる望みをいだいているだけだとすれば、私たちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。しかし、事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。」

神さまは、これからこのようにして(私がおぼろさんになるまで)聖書のことばで教えてくださるに違いないと思えました。あれから五〇年、神さまは本当にそのような真実なお方でした。また家族や友人達がイエスさまを信じるという恵みもいただきました。主の御名をほめたたえます。

最近、私がチャレンジしたことや教えられたことがあります。

一つ目は、私は長い信仰生活でまだ一度も聖書通読を達成したことがないことに気づきました。それは一昨年の下川友也先生の講演で聖書通読のお勧めを聞いたことによつてです。さっそくチャレンジしました。時間を決めて隙間時間も活用し、密林のようなモーセ

父母感謝礼拝での教会学校特別賛美



2024年5月12日(日)

五書や意味が難しい所に来ても立ち止まらずに読み続けました。そしてついに旧新約聖書を五か月間で通読達成しました。とてもうれしかったです。これを聞いた妹も通読を始め二か月で達成し、「聖書がさらに身近に思えるね。」と喜びを分かち合いました。

あるイスラエルと結ばれ、神は契約を守るお方、歴史は契約に基づいて展開し、歴史の中で契約は成就していくことにワクワクしました。私たちの信じる神さまはなんと素晴らしいお方でしょう！創世記から黙示録まで契約を守り導いておられる創造主なる神さまをもっと知り、信頼して感謝と賛美をささげる者になりたいです。

※

相手がすぐ強くても、イエスさまがそばにいることを信じて戦える勇気のあるサッカー選手になりたいと思つています。もしサッカー選手になれなかったら、動物の飼育員になりたいです。イエスさまが創られた生き物をイエスさまのように優しくお世話をしたいです。これまで僕は、将来の夢について具体的なイメージが持てずにいました。でも今、イエスさまの力によつて、このように答えることができます。

最後にみことばをお読みします。
「ですから、あなたがたに言います。あなたがたが祈り求めるものは何でも、すでに得たと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」

(マルコ十一・二四)

このみことばを選んだ理由は、みんながイエスさまを信じて天国に行き、幸せになつて欲しいと思うからです。まだイエスさまを信じてない人のために、お祈りしていきたいと思つています。
(23・12・24受洗 中学生)

「だけの愛に生かされて」

万城 崇

「とりあえず、おいでよ。」をテーマに四月二八日から二九日まで蒜山バイブルキャンプ場で日本同盟基督教団主催のDSI West キャンプが行われました。講師には「つながれイエスマ」や「夢見人」など、多数の賛美を制作されている山本陽一郎先生が来られ、とても良い時間を同盟の青年たちと過ごすことが出来ました。

初日のメッセージから、私たちは信仰生活の中で高すぎた理想を抱えてしまい、自分の姿と理想のギャップに落胆し、神さまと向き合えなくなったり、自分で勝手に信仰者としてふさわしくないと決めつけたりしてしまふことがあると知りませんでした。

しかし、神さまは決して私たちを見捨てるお方ではなく、どんな私たちも受け止めて癒そうとしてください。神さまは私たちがまだ罪人であった時から愛を届け続けてくださっている。そんな神さまは私たちに、抱え込んでいる思いや、しがらみを手放して「とりあえずおいで」と招いてくださっていて、私たちが御言葉に耳を傾けて、休みと癒し受けることを望んでくださっていることを知り、忙しい日々を過ごす中で、本当に求めるべきものを改めて気づかされました。

二日目は愛を受け養われた私たちが神さまにどのように応答していくのかというメッセージでした。イエスさまの懐はなんて大きいのだろうかと思いました。三度もイエスさまを知らないと言ったペテロでさえ、神の働きに加えられようと諦められませんでした。このことを山本先生は『だ

けど』の愛」と言われました。私たちが正しくて忠実だからではなく、小さくて弱い私たちだけで用いてください。理由の伴わない愛があることを知りませんでした。神さまは計り知れない御方であり、何者にも勝る偉大な方ですが、こんな私たちと一緒に神の国を建てあげようと呼びかけて下さり、共に歩むことを喜びとしてくださる親しみのある方です。

私はよく自分を卑下して神さまの前に出ることを躊躇い、自分の力や神さま以外のものに頼ろうとしてしまします。そうやってどんな神さまから離れていき、満たされなままです。ですが本当に私を癒し、満たすことが出来るのは神さまだけであり、ヒビだらけで欠けだらけの私と共に歩みたいと望んでくださるイエスさまがいることを何度でも思い出してみたいと思いました。



山本陽一郎先生と

木下美穂 リサイタル
ピアノ 華東儀かな江

「百年の歴史を持つベルリン国立歌劇場で、二十年以上に渡り活躍する木下美穂がふるさとの教会で歌う、愛の調べ」

2024年 8月25日(土) 開場 13:15 開演 14:00

西大寺キリスト教会 グローリア礼拝堂

チケット 一般 2000円 高校生以下 1500円 (全席自由)
※未就学児の入場をお断りすることがあります

取扱 西大寺キリスト教会
連絡先 086-943-7552 平日 9:00~17:00

QRコードからチケットのお取り置きもできます。